



百人一首のススメ

皆さんは百人一首を覚えたことがありますか。現在、創学舎では、小学生が百人一首の暗唱に取り組んでいます。これは今年度から取り入れた新たな取り組みです。この百人一首文化が創学舎内にどんどん浸透していき、来年度には「百人一首かるた大会」を実現させたいと思っています。



創学舎で百人一首を取り入れることになった一番の目的は「語彙力強化」です。百人一首に選ばれた歌人は当然優れた歌人ですから、その表現の技術や言葉の感覚も一級品です。日本語の持っている心地よい音の調べ、品格のある語句の使い方などに小学生のうちから触れてほしいと思っています。私は、第十首の「これやこの 行くも帰るも 別れては知るも知らぬも 逢坂の関(蟬丸)」という歌が気に入っています。「行くも帰るも」「知るも知らぬも」という対句表現による音の調べが非常に心地良いからです。ぜひ皆さんも声に出して詠んでみてくださいね。

百人一首を暗唱することで、日本語に対する繊細な感覚も身につきます。例えば、第十三首に「筑波嶺の 峰より落つる みなな川 恋ぞ つもりて 淵となりぬる(陽成院)」という歌があります。覚える際に「淵」と「淵」なのか、「淵」なのか、と迷うことがあります。このように、

歌を正確に覚えようとする事によって、様々な助詞の使い方に敏感になります。「が」「は」「に」「を」……等)生徒たちの日常会話を聞いてみると助詞の使い方が不適切な場合がたくさんあります。早い段階で繊細な言語感覚を身に付け、より正確な言葉遣いができるようになってほしいと思っています。

日本人は頭の中で思考する際、当然日本語を用いて思考します。ですから、語彙力が不足していると、当然思考の幅が狭くなります。しかし、言葉の知識が広がると、それに比例して、様々な考えが広がり、より論理的な思考ができるようになっていきます。

さらに、言葉の知識が広がると、様々な表現ができるようになります。そうすると、自分自身の中にある、複雑、かつ繊細な意見や感想を相手に存分に伝えることができるようになります。自分自身の思いをより正確に伝えられる表現力・コミュニケーション能力を向上させることもできます。

創学舎では、読書の習慣はもちろんのこと、百人一首暗唱の習慣も重要視して、生徒たちの語彙力が少しずつ向上されることを願っています。(村田)

誰にでも、何かはあります。

毎年、春に受験体験記を読みますが、それぞれいろいろなことを考えて、いろいろな悩みを抱えて、頑張ってきたんだなと感心しています。後輩のやる気にもつながるものだと思いますが、私たちのやる気にもつながるものだなとつくづく

く感じています。

さて、そう考えると、「いったい自分が中学生の頃はどっだったのか」と思い出すことがあります。私はいまだに、自分が中学三年生のときに受けた「千葉県そっくり模擬」の結果を持っています。十月の志望校判定はD判定。塾の先生に「このままだとまずいよ。」と呼び出されたのを今でも覚えています。

私は、塾では、いつもクラスの底辺を這うような成績で、塾の先生にはよく嫌味を言われていました。模試の答案のコピーを見ながら、「この前やった問題、あなただけ出来てないね。みんな出来ているのにね。」ということをよく言われていたような生徒でした。だからといって、模試の日が怖くてびくびくしていたわけでもなく、「今に見てろよ、すごい成績をとってぎゃふんと言わせてやる。」と思って、意地を張って小テスト、宿題をがりがりやる日々でした。

しかし、そんな強気しかない私も、十月に受けた「千葉県そっくり模擬」の判定を見て、さすがにまずいと思ひ、どうしたものか



と悩みました。判定を上げたい、偏差値を上げたい、でもどうすればいいのかわからないのです。小テストはちゃんと満点とっているし、宿題も出しているし……。私の場合は周りの塾の生徒と比べ、量が足りなかったのです。そこで、とにかく意地張りの私が始めたのは「終わるまで寝ない勉強法」。部活動の「サーブ百本入るまで帰れない。」ではないですが、ここまで終わるまでは寝ないというラインを決めて勉強しま

す。テニスの練習メニューのように、基本練習から始まって試合形式の練習へ。漢字や英単語、数学の小テストなどの絶対に完璧にこなさなくてはならないものから始まって理社のワーク、文章問題、そして過去問へとその日やる分を計画を立ててから始めます。(創学舎には合格へのパスポートがありますね。本当にうらやましい。)終わるまで、寝ない。最初は時間がかかりましたが、漢字や英単語などの基本の正答率が上がり、素早くこなせるにつれ、だんだんと早くメニューが終わるようになります。

さて、十二月の「千葉県そっくり模擬」はC判定。あれだけやって、Cなの？と悲しくなりましたが、母親からは「人生そんなに甘くない」と言われ、納得。その後、ちゃんと高校生になることができ、楽しい高校生活を送りました。今では、生徒のみなさんに教える立場にある私ですが、みなさんと同じように勉強には悩まされています。反抗ばかりしてしまうときも、落ち込んでしまうときも、経験しています。みなさんの様子を見て、共感できるところもたくさんあります。日々山あり谷ありのなか、なんとか前向きに取り組んでいけるように一緒に頑張っていきましょう。(大久保)

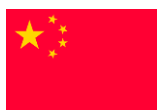
夏休みの厄介な宿題 (自由研究)について

夏休みも終わり新学期に入りました。新学期いかがですか。今年も夏休みの宿題の自由研究に何をしたらよいか分からず、ぎりぎりまで引き延ばしていた生徒を何人か見かけました。

他の宿題と違って具体的に何をやらたらよいか分からない分、難しいのかもしれない。しかし身の回りには興味のあるものについていろいろ調べることは、長い休みを利用してやるにはうってつけの課題だと思います。とはいっても当の皆さんにとっては厄介な宿題であることに変わりはないでしょう。小・中学生のときの自分もそう思っていたと思います。そこで今更ながらですが、その自由研究の題材になりそうな話題を一つ。来用に。

今年ブラジルのリオでオリンピックが開催されましたが、そこでちょっとした騒ぎが起きていたのを知っていますか。その原因は大会で使われる中国の国旗にありました。

中国の国旗は赤い生地地に五つの星を描いているところから「五星紅旗(ごせいこうき)」と呼ばれています。その五つの星のデザインに誤りがあったのです。本来中国の国旗は、左上に大きな星が一つあり、その周りをぐるりと取り囲むように小さな星が四つあって、その小さな星の先端が大きな星の中心に向っているのが正しいのですが、大会で用いられた旗には、周りの小さな星が平行に配置されていました。と言葉で説明はしたものの実際どうなっているかは、ぜひ一度ネットで検索して、その問題の国旗を見てください。かつて日本でもNHKでイギリスの国旗「ユニオンジャック」を表裏間違っ



た放送したことがあります。当の国の人でもない限り、その間違いにはなかなか気づかないようです。この国旗ですが興味深い事実があります。皆さんは知っていましたか。国旗の縦

と横の比が国によって違うことを。オリンピックや国連などに掲げられている国旗はすべて縦と横の比が2対3に統一されていますが、実際は各国でその比はバラバラです。一番多いのがこの2対3で、日本もこれに当たります。カナダ・イギリス・ロシアのように1対2のところもあれば、スイスのように1対1、アメリカのように10対19と変わった比をもつ国旗もあります。モナコとインドネシアは上半分が赤、下半分が白と同じデザインですが、縦横の比において二つは異なっています。モナコは4対5、インドネシアは2対3です。ここまでは以前国旗について調べたときに知ったのですが、これを機にさらに調べてみるとさらに面白い事実に出会いました。ここにそのいくつかを紹介すると、日本の国旗に描かれている日の丸はただの赤丸でよいということではなく、大きさは縦の長さの5分の3と決まっているそうです。また、アメリカの国旗「星条旗」は縦向きにかけるときには星の部分がか左になるように掲げるといふことです。



世界には表と裏のデザインが異なる国旗を持つ国もあるということもわかりました。事のはじめはちよつとしたニュースからでしたが、それを機に色々なことを知ることができました。

悪しき宿題の代名詞「自由研究」も今回の私の経験のように、あなたの好奇心の扉を開けてくれるかもしれません。何か身の回りのことに疑問・興味はありませんか。その興味を持って扉を開けてみましょう。その先にはきっと素敵な世界が広がっていることでしょう。(小池)

祖父母孝行

九月には敬老の日があります。以前、敬老の日のお祝いとして祖母に鉢入りの花を贈ったことがあります。祖母は花や草木がとても好きであるため、贈り物として選んだその花をととても喜んでくれました。あの花をプレゼントしてから年月が経ったものの、時折電話で話すたびに今でも元気に育っている花の様子を声高々に伝えてくれます。そんな祖母の様子から、こんなに喜んでくれるなんて思ってもみなかった私はとても嬉しい限りです。



ところで、敬老の日という今では当たり前のように存在する記念日がどうやってできたのかご存じでしょうか。

秋の訪れが感じられる九月下旬にある敬老の日。この日は一九六五年に国が法律で国民の祝日として定めたものであり、「多年にわたり社会に尽くしてきた年長者を敬愛し、長寿を祝う」という目的で制定されました。現在の敬老の日、法律によって九月の第三週の月曜日と定められています。つまり、その年によって敬老の日の日付が変わるのです。

あるとき、敬老の日の由来が気になり調べてみるとその由来は兵庫県にあるそうです。一九四七年、兵庫県野間谷村で村長らが「としよりの日」を提唱、その三年後に兵庫県全域に広がり、すぐに全国にも広まったようです。その後名称表現についての議論など紆余曲折あり、現在の敬老の日という名称で落ち着きました。そ

して、二〇〇二年までは九月十五日であった敬老の日、これが二〇〇一年に実施された祝日改正法(ハッピーマンデー制度)によって、二〇〇三年から敬老の日は九月の第三月曜日になったのです。

今日では当たり前のように存在している祝日の一つではありますが、その背景には色々な出来事が絡み合っ

て今に至っていることを知りました。さて、今年三年ぶりに急遽地元へ帰省する機会がありました。地元へ降り立つことになって、心身ともに原点に返るためという思いもありましたが、祖父母孝行をしたいという思いからでもありました。決して特別何か大きなことができたわけでもないですが、以前と比べ色々な話ができたり一緒に食事をしたり、何より祖母の笑顔を見ることができて嬉しく思い、同時に身近にいる方々はもちろん色々な方々に様々な形で支えられているのだということも実感しました。今年の敬老の日は九月十九日。親孝行はまだ照れくさくてできない方の中にもいるかもしれませんが、おじいちゃん孝行、おばあちゃん孝行なら素直に行えるかもしれません。普段孝行している方もそうでない方も、日ごろの感謝の思いを行動にしてみるのはいかがでしょうか。いつのときも誰に対しても感謝の気持ちを持ってほしいものです。



▼▲継続希望の方へ▲▼

▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送りいたします。
▶在籍していた教室までご連絡ください。

(比嘉)